EVENT GUIDE

2026年
8月-9月のイベント

キャンプ場に泊まって **ナイトミュージアム**	8/1(土) 9/5(土) ①19:00-20:00 ②20:30-21:30	学芸員の解説を聞きながら夜の海竜展示を懐中電灯片手に鑑賞します。 ※予約期間など詳細はサヒメルHPを参照	定員：各回20名 料金：500円 （小学生以上）	要予約 対象：キャンプ場宿泊者限定・抽選制
月イチガク⑤ **ゆれる！** ～島根の地震を考える～	8/8(土) 14:00-15:30	地震が発生するしくみと、その時に起きる現象を知り、防災について考えます。	定員：20名 料金：無料	要予約 交流の家で開催
化石ハンター養成講座	8/9(日) 13:00-16:00	島根県で見つかる化石をテーマにした、自由研究のヒントが詰まった体験型の講座です。	定員：20名 料金：入館料	要予約
ペルセウス座流星群観察会	8/12(水) 8/13(木) ①20:00-20:45 ②21:00-21:45	流星群の極大にあわせて観察会を開催。観察室に寝転んで夜空を流れる流星に注目します。	定員：各回60名 料金：大人350円 小中高生100円	要予約
きっずサンデー	8/16(日) 9/20(日)	島根県の「しまね家庭の日」にあわせ、きっずプラネタリウムやテンピーとのふれあいなど、キッズ向けイベントが満載の1日。	定員：なし 料金：入館料 ※小中高生無料	
海竜＆絶滅海獣を探せ！ **化石発掘体験**	8/22(土) 9/13(日) ①10:00-11:00 ②14:00-15:00	島根県内から集めてきた岩石を割り、海竜や絶滅海獣が生きていた時代の化石を探します。	定員：各回20名 料金：入館料	要予約
みんなでさわろう♪ **わくわくワゴン**	8/23(日) 9/27(日) ※各15分程度	普段はさわることができない標本ですが、この日はワゴンに乗って登場！楽しいお話で生き物の不思議にせまります。	定員：なし 料金：入館料	
親子で作ろう工作教室 **木の実・木の枝工作**	8/23(日) 13:00-14:30	自分のアイデアで木の実と木の枝を使った素敵な作品を作ります。	定員：親子6組 料金：子ども1人あたり100円	要予約
古生物工作まつり	8/30(日) 10:30-15:00	古生物をテーマにした工作を楽しむ一日。色々な工作をお楽しみ下さい。	定員：40組程度 料金：100円	当日受付にて整理券配布（先着順）
字幕付きプラネタリウム **月を見上げて**	9/16(水)～9/21(月) 10:00-10:30	解説の声と字幕で月を紹介するプラネタリウム番組を投影します。	定員：100名 料金：入館料	
月イチガク⑥ **鳴く！なぜ鳴る琴ヶ浜** ～鳴砂の科学～	9/19(土) 14:00-15:30	琴ヶ浜の砂が音を立てる仕組みを紹介するトークショー。	定員：20名 料金：大人800円 中学生以下400円	要予約 仁摩サンドミュージアムで開催
シルバーウィーク天体観察会	9/19(土)～9/22(火) ①19:00-19:45 ②20:00-20:45	9月の大型連休時期に見やすい月や秋の星座を観察します。	定員：各回60名 料金：大人350円 小中高生100円	要予約

要予約 このマークがあるイベントは、1ヶ月前から実施する施設ごとに予約を受付します。

三瓶自然館：0854-86-0500　三瓶小豆原埋没林公園：0854-86-9500（さんべ縄文の森ミュージアム）　三瓶山北の原キャンプ場：0854-86-0152

※イベントが変更中止の場合はHP等でお知らせします。
※毎週土曜日の天体観測会は予約制（HPから、その他はお電話）で実施しています。
※4月～11月の毎週土曜日の「北の原お散歩ツアー」、毎週土・日曜日と祝日の「天文ミニガイド」は、入館された方を対象に予約不要で開催しています。

Sanbe Field Museum News
さんべ発！
No.197 2026年7月号
島根県立三瓶自然館 ニュースレター

島根県立三瓶自然館サヒメル
○開館時間/9:30～17:00
○休館日/毎週火曜日
（火曜日が祝日の場合は翌平日）
年末年始、その他、メンテナンス休館あり



夏の霧の海

よく晴れた夏の早朝、三瓶山西の原の登山道を登る途中、振り向くと幾筋かに分かれた霧がゆっくりと草原に広がりはじめていました。谷底からわき上がり、潮が満ちるように西の原を埋めて行きます。少し遠くを見ると、霧の海が広がっているようです。

江の川が流れる三瓶山の南麓は霧の名所です。秋から冬が霧の季節として知られていますが、夏の時期でも気温と湿度の条件が揃うと霧が広がることがあります。

この日、江の川が流れる川本町のアメダスの記録によると夜間の湿度は 98%前後、そして朝 8時に 100%を記録しています。空気中の水が結露して霧が発生する状態です。

眼下にわき上がる霧を見ながら山頂に着いたのは午前 7時。南方を見ると一面が霧に覆われ、大平山（標高 854m）を越えて室ノ内に流れ込もうとしていました。青空と山の緑と白い霧。早く起きた朝に出会うことができた夏の特別な光景です。

<隔月発行>
三瓶フィールドミュージアムニュース
編集・発行　公益財団法人しまね自然と環境財団
〒694-0003 島根県大田市三瓶町多根1121-8
TEL 0854-86-0500/FAX 0854-86-0501
<エコサポしまね> 〒690-0887 島根県松江市殿町8-3 / TEL 0852-67-3262
しまね自然と環境財団は、三瓶自然館等の指定管理者です。
エコサポしまね（松江事務所）では、地球温暖化対策等の事業を行っています。

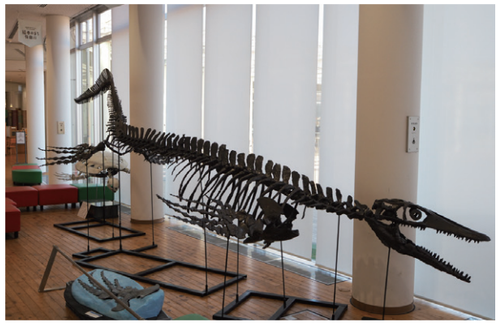
令和8年度夏の特別企画展

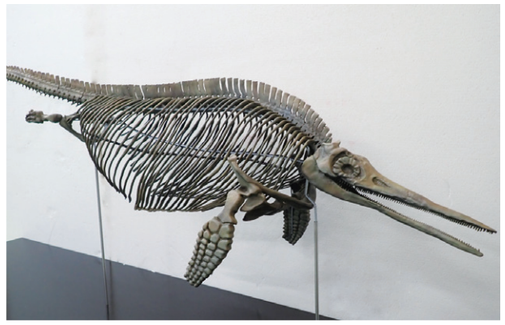
01 海竜大進化 ~恐竜時代の蒼き海へ~



今夏の企画展のテーマは「海竜」です。恐竜たちが陸上で繁栄していた中生代。2億年近い長い時間の中で、さまざまな爬虫類が海へ進出し、進化を遂げました。そのなかでも、魚竜、首長竜、モササウルス類などを中心とした、中生代の絶滅海生爬虫類は「海竜」と通称されることがあります。

そんな海竜たちですが、とある大事件をきっかけに誕生しました。それは、生命史上最大規模とされる古生代末（約2億5,200万年前）の大量絶滅です。この大量絶滅によって、海の生態系は大きく入れ替わり、爬虫類の一部は海へ進出しました。そうした爬虫類の中から、出現したのが魚竜と首長竜です。魚竜は大量絶滅からわずか400万年後の三畳紀前期には出現し、急速に進化・多様化していきました。続いて三畳紀末期の約2億500万年前には首長竜も現れ、その後長らく繁栄しました。魚竜は白亜紀後期のはじめ、約9,400万年前に絶滅しますが、それと入れ替わるように出現したのがモササウルス類です。出現以降、モササウルスは多様化・大型化して当時の海を支配しましたが、首長竜とともに約6,600万年前に絶滅しました。この企画展では、こうした海竜たちの進化と絶滅の歴史を紹介します。


モササウルス類：ワカヤマソウリュウ
（所蔵：有田川町教育委員会）


魚竜：イクチオサウルス類

また、この企画展には、もう一つ重要なテーマがあります。それが「中生代の海洋変革（Mesozoic Marine Revolution：MMR）」です。MMRは、中生代に捕食者と被食者が競い合うことで共進化が生じたとする学説です。このMMRの背景にも、古生代末の大量絶滅後に進んだ生態系の入れ替わりがありました。大量絶滅後、生態系が回復していく過程で、魚類、甲殻類、海生爬虫類など、獲物をより効率的に捕食することができる捕食者が出現しました。これに対して、貝類などの獲物（被食者）も、できるだけ食べられないように姿や暮らし方を変えていきました。例えば貝類では、殻を厚くする、トゲを発達させる、砂や泥の中にもぐるといったように形態や生態を変化させました。こうした捕食者と被食者の進化の“いたちごっこ”は、一部のアンモナイトの大型化や殻の装飾、貝食性の海竜の進化など、さまざまな生物にも影響を及ぼし、やがて海洋生物の多様化につながりました。

アサリやハマグリのように海底にもぐって暮らす二枚貝、トゲのあるサザエ、そうした貝類を捕食するタイワンガザミ（アオデ）など、私たちの身近な海の生き物の形や暮らし方にも、中生代の海でくり広げられた進化の歴史が受け継がれています。この夏、海辺や食卓で海の生き物を見かけたら、海竜たちが泳いだ太古の海に思いを馳せてみてください。


タイワンガザミ（アオデ）

（学芸課　今井　悟）



首長竜：エラスモサウルス類（所蔵：福井県立恐竜博物館）

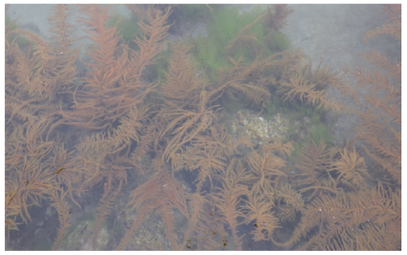
02 海に生えるのは、海藻？海草？

海の中に生える「かいそう」と聞いて、どんな漢字を思い浮かべますか？　多くの人が「海藻」と答えることでしょう。コンブやワカメ、ヒジキなど、食材としても身近な存在です。胞子で繁殖する藻類というグループに属し、その中で大型になるものが海藻と呼ばれます。色や形はさまざまで、海の生態系を支える大切な存在です。

一方、「海草」と書くグループもあります。こちらは身近にある草木と同様、花やタネをつけます。かつて陸上で暮らしていた種類が、海へ里帰りしたと考えられています。混同を避けるため、「うみくさ」と呼ばれることもあります。

この海草が現れたのは白亜紀後期。当時の海は、モササウルス類などが支配していました。巨大な海竜たちは海草を見ながら大海を泳いでいたかもしれません。

（副館長　井上　雅仁）


海中の岩場で繁茂する海藻


身近な海草である、アマモの仲間